

# 鹿のお話(前編)

日野郡鳥獣被害対策協議会  
実施隊チーフ 木下 卓也



最近、鹿を見たとか、車と衝突したとか、山で「フィヨ～」 「ピーッー」という鳴き声を聞いたとか、鹿の話題が皆さんの周りで出たことはありませんか？じつは今、日野郡では鹿が増えてきています。そこで、鹿の生態と被害について2回にわたってお届けします。

鹿についてと言いつつ、まずは猪(イノシシ)から話を始めます。現在イノシシと呼ばれていますが、昔は「シシ」は「肉になる動物」を指す言葉だったと言われていました。イノシシとは「猪(み)の肉(しし)」、猪肉を示し、カノシシと言えば鹿肉を示していたのです。つまりシカは「鹿(か)」と呼ばれていました。メスジカを「雌鹿(めが)」、オスジカを「雄鹿(せか)」と分けて呼んでいたものが、いつしか「せか」が転じて「シカ」になったと言われていました。「ハンピ」を思い起こしたら、背中に白い斑点模様があったと思いますが、あの模様を「鹿の子(かのこ)」模様と呼びます。そう、鹿は「か」なんですね。ちなみに鹿の子模様とは言いますが、夏毛に出現するものなので、大人も子供も夏になると白い斑点のある姿になります。**斑点があるからと言って子供とは限りません！**



日野町宝仏山で撮影した親子鹿



鹿は、5～6月にかけて誕生します。1年に1回の出産で、1頭ずつ生まれてきます。双子以上になることは、ほぼありません。1歳半で発情し、2歳までに完全に大人になります。メスは**2歳以降はほぼ毎年出産する**という優秀な増加力を持っています。オスジカは満1歳で角が生え始め、その後毎年枝分かれしていき、4つの先端になると完成です。**先端が4つある角を持った鹿は、4歳以上のオスジカ**ということです。角は毎年生え変わるのですが、春には少しふよふよとした状態で生えています。この状態を袋角(ふくろづの)といいます。だんだん固くなって表面がはがれて夏ごろには「角」になります。

鹿は**草食性の反芻動物**です。反芻動物の代表格は牛ですが、牛と同様に4つの胃を持ち、食べて一度胃に入った食べ物を口に戻してもう一度もぐもぐして飲み込むという食べ方をします。この食べ方によって、しっかりと草を分解し、栄養を吸収します。さて、草食動物という弱いイメージがありますが、草があれば生きていけると考えると、猪やタヌキなどの雑食性の動物よりエサ資源が豊富で、**生存率が高い**のです。

まとめてみると、鹿は2歳以降は毎年出産し、食べ物が豊富で、十分に栄養を取れるため、子どもはしっかり育つ、出産にも困らない、草食動物は弱いというイメージに反した、実に「たくましい」動物です。それゆえ、人間との軋轢が生まれます。その辺のお話は次号で。

同日野郡鳥獣被害対策協議会 電話：0859-72-1399



## 表紙写真

タイトル：「豊作の予感」

撮影者：田邊 元巳氏(日南写友会)

撮影者コメント：青葉が目にしみる季節となり、ある日早朝に山里を通りかかると田植えの準備が出来上がった田にハウスのある風景が写りこんでいる景色に出会いました。夢中でシャッターを切り、豊作を祈りつつその場を後にしました。数時間後、再びその場を通りかかると、すでにきれいに田植えが終わっていました。